

空を仰いで致しませう。

遊 戯

古 澤 静 子

寒くなつて参りました。暑さ寒さによつて運動を調節し、身體に及ぼす影響のコントロールをしなければなりません。

寒い日の遊戯は、早く身體が暖くなる事が必要でありますから、その時間は最初に駆足をしたり、行進の時間を長くしたりして準備運動にする事もよいでせう。そして遊戯も成るべく跳躍的なものをその日の計畫の中におり込みたいと思ひます。

「かしん場」 日本幼稚園協會發行 幼稚園新唱歌所載

隊形。二、三人一組になつて一緒に行動する。

「前奏」 各自、右臂を曲げて大工さんの道具を肩に擔いだ姿勢をとり、一組づつかたまつてスキップで好きな方向へ行き、前奏が終つた時、一組の者がむきあつてその場に坐る。

「のこぎりのおとゴシゴシゴシゴシ」 坐つたまゝ。兩手を握つて、鋸を持つた姿勢をとり、鋸で木をひく様に、體の先方に兩手を出して次に體の近くにひきよせる。この動作を一小節に一回行ふ。

「かんなのおとがスースースー」 鉋を持つ様に兩手の指を曲げ、鉋で板を削る様に、體の左から右へと兩手を伸ばしては、ひきよせる。この動作を一小節に一回づゝ行ふ。

「くぎをうつおとんカチンカチントントン」 兩手を固く

握り、右手を高く上げて、左手の上に打ち下ろす。一小節に一回づゝ打ち、「トンカチ／＼／＼／＼」の時に、歌詞にあはせて少し早く打つ。(結局七回打つ事になる)

二節

「さんかくしかく」 始めの四呼間、各自掌を交互にかへしながら二回拍手し、次に一組の者全體で、お互ひに掌を三回打ち合はせる。この動作を二回繰り返して行ふ。

「大工さんがくれた」「さんかくしかく」と同動作。

「木のきれ小ぎれ積木にしませう」 掌をかへし、積木を重ねる様に、皆の手を集めて掌の上へ上へと重ねてゆく。

「くぎをうつまねトンカチ／＼／＼／＼」

一番と同じ。

「お正月」 エホン唱歌フユノマキ所載

隊形。全生圓形を作り連手する。

「お正月がくるぞ」 全生連手して圓心に進む。

「一つお年が」 掌を交互にかへして拍手しながら後退する。

「多くなる」 兩手を出し、拇指から順に曲げ、又順々に開いて年を数へる。(一呼間に一指づゝ曲げる) 休止符のところは動作を休む。

「うれしいな／＼」 圓周に沿つて左に歩きながら、右手を大きく後から上にあげ、體前で左手の上に打ち下ろして「な」の時に拍手する。この動作を四呼間で行ひ、次の四呼間は反對の方向に進んで、今と反對に左手を大きく後から上にあげて前から下ろし、

體前で右手の上に打ち下ろして「な」の時に拍手する。

二節

「お正月がくるよ」一節と同じ。

「凧をあげたり」凧の綱を引く様に、兩手を交互にひきながら後退する。頭をあげて、空の凧を見ながら。

「すころくしたり」兩掌を合はせ、左右の耳の側で二回づつ、結局左右左右と八回振る。

「うれしいな〜」一節と同じ。

「汽車」日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。八人―十人を一組とし、一列縦隊に並び、兩肘を曲げ體側につけてしゃがむ。

「前奏」(始めの二小節) 汽車が動き出すところ。體側につけた車を廻しながら四呼間の中に一齊に立ち上る。

「一小節―八小節」車を動かしながら、一呼間に一歩づつ歩いて進んでゆく。

「九小節―十七小節」同様にしてスキップで進行する。

「十八小節―二十五小節」トンネル。

先頭と次の者が向き合つて手をとり、トンネルを作る。後の者は順々にトンネルをくぐつて、これにならつて二人づつトンネルを作つて行く。全部の者がトンネルを作り終つたら、最初に出來たトンネルは手を離して、トンネルをくぐり抜け、もとの様に先頭から順に一列に並ぶ。

「二十六小節―三十三小節」又車を廻しながら、スキップで前進。

「後奏」速度をゆるめて歩き、最後の二小節の間にしゃがんで車を體側にとめる。

兩肘を屈伸してよく車を廻し、列が亂れて脱線したり、轉覆したりしない様注意する。

「國旗ふれ〜」日本幼稚園協會發行 唱歌選集所載

隊形。男兒。出征兵士で、一列圓形を作る。

女兒。見送りの人々になり、男兒の圓形の中に、外側をむ

て一列圓形を作る。(男兒と女兒はむき合ふことになる)。

全生、右手に日の丸の旗を持つ。

「前奏」そのまゝ聴く。

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

全生、旗を持った右手と、左手を體前で交叉し、次に横に舉げて、旗を振る。

「赤いたすきの兵隊さんが」

男兒。旗を肩にかざし、左手を振り、圓周に沿つて右に歩く。

女兒。そのまゝ右手を上舉し、旗を高く振る。

「行つて來ますと元氣な顔で」

男兒。圓周に沿つてそのまゝスキップを行ふ。

女兒。最初の動作の様に、旗を持った右手と左手を左右に振る。

「擧手の敬禮勇ましい」

男兒。止まつて圓の内側を向き、右手の旗を左手に握りかへながら足踏みをする。そして「勇ましい」の時に右手で擧手の敬禮をする。

女兒。再び右手を高く舉げて旗を振る。

二節

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

全生。一番と同様。

「白いたすきのおばさん達が」

「勝つてかへれと元氣な聲で」

男兒女兒共に、一番と同じ動作を行ふ。

「皆で萬歳勇まし〜」

男兒は圓の内側をむき、全生兩手を高く舉げて萬歳を二回する。

三節

「國旗ふれ〜ふれ〜國旗」

一番と同じ動作を行ふ。

「行つて下さいお國の爲に、勝つて下さいお國の爲に」

全生旗を肩にかざし、

男兒。四呼間に四歩前進し、四歩目に右足（左足）の足先を左足

（右足）の踵のところまで軽くうつ。次の四呼間で後退する。この動作を二回繰り返す。

女兒。男兒と同じ動作をする。その爲に、前進した時には、男兒

女兒が交錯する事になる。

「行くもかへるも勇ましい」

全生右手を上舉して旗を高く振りながら、各自のまわりを右に

一廻りする。

「後奏」

全生旗を高くあげ、圓周に沿つて右にスキップで進む。最後に圓の内側（女兒は外側）をむき、ピアノの合圖があるまで旗を振る。

歌詞、動作共に勇ましいものであるから、歩くこと、スキップ、舉手の敬禮、萬歳、旗を振る動作等、どれもきまりよく、正しく整然と行ひたい。

観
察

清水光子

寒くなること

暑くなる時もさうであるけれど、急に今日は大變寒いといふやうな日がある。その様な日に「今日はすつ分寒いね」と言つて、朝大變手が冷かつたとか、着物を厚くしたとか、お庭が霜でまつ白だつたとか、氷がはつたとか話合ふ。そして話し合ひ乍ら自然に觀察する態度へと行くやうにする。寒いねと言ひ乍ら、保姆自身が見るといふやうにして寒暖計をみる。「十度（攝氏）ね。きのふは十二度だつたのに。」などと話すやうに又獨り語のやうに言ひ乍ら。すると「それなに」、「みせて」といふ子どもがあるだらう。それなら見せる。殊更説明しないでたゞ寒い時は水銀の上端が低い、暑い時は高くなるといふ程度に話し、よくみせる。もつとつつ込んで聞くやうな時は適當に答へ、疑問を或程度殘しておく。例へば、なぜ上つたり下つたりするの、といふやうな間に對して